

第104期事業報告書

株主の皆様へ



代表取締役社長
林田 紀久男

平素は格別のご支援を賜り、有難く厚くお礼申し上げます。

第104期（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）の事業報告書をお届けするにあたり、連結および単体を含め、会社の近況をご報告申し上げます。

当社では、このたび代表取締役社長 仁瓶義夫が代表取締役会長に就任し、後任として私が社長に就任いたしました。社業発展のため専心努力いたす所存でございますので、今後ともいっそうのご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

当期におけるわが国経済は、企業収益が改善し、雇用環境もようやく持ち直す中で、民間需要を中心に緩やかな回復をたどっておりますが、個人消費は総じて横ばい状態にあり、また、輸出が弱含むなど回復の歩みは一進一退の状況にあります。

建設業界におきましては、民間設備投資が緩やかに回復する中で、建築を中心とした民間建設投資の回復は見られるものの、公共投資の縮減傾向は変わらず、依然として厳しい状況にあります。特に道路建設業界では主力の公共工事の縮減と原油価格高騰による材料費上昇などの影響を受け、一段と厳しい状況が続いております。

このような環境の中、当社グループは、各社が有する技術の優位性を活かした舗装工事、土木工事、建築工事等の工事受注の確保、アスファルト合材等の製品販売の拡大、開発事業等の強化に努めるとともに、コスト削減によるいっそうの収益力の向上に取り組んでまいりました。

今後の展望につきましては、緩やかな景気回復が続くと見込まれておりますが、輸出や個人消費の動向、原油価格高騰の影響等もあり、景気の先行きは楽観を許しません。

こうした中で、建設業界のおかれた状況は依然として厳しく、公共投資は国、地方を通じて今後も縮減が続くと見込まれます。特に道路建設業界は、この公共投資縮減の影響を大きく受けるため、一段と厳しい状況が予想されます。

このような厳しい環境にあっても、当社グループは、技術と経営に優れた企業集団として生き残るため、組織機構の改革、技術力の向上、営業力の強化に努めるとともに、生産性の向上とコスト削減を確実に進めながら、競争力の強化に取り組んでまいります。そして、舗装工事、土木工事、製品販売の収益基盤のいっそうの確立を進めるとともに、建築、開発、プラントエンジニアリング、土壌浄化等の分野の収益力向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格段のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年6月

株式会社 NIPPOコーポレーション

代表取締役社長

林田 紀久男

トピックス

最新の技術との遭遇

建設技術展示館

リニューアル
オープン

千葉県松戸市の国土交通省関東技術事務所内にある「建設技術展示館」が、平成16年10月22日リニューアルオープンしました。当展示館では、民間142社と13団体（官公庁含む）が、それぞれの最新技術を通年で展示しています。

当社は、環境改善をメインテーマに **クールパーピラス**(遮熱排水性舗装)と **クールポリシール**(保水性舗装)を展示しています。また技術事務所の構内道路には **スピードセーブ工法**(速度抑制舗装)も施工されています。



記念式典



愛知万博関連道路で

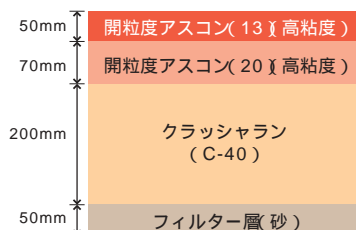
アクアパーピラスを施工

NETIS登録 No.CB-010032

2005年日本国際博覧会（愛知万博、愛・地球博）が3月25日から9月25日までの185日間、「自然の叡智」をテーマにして開催されています。これに伴い周辺施設の整備も充実され、今回、万博会場に通じる新設道路に車道透水性アスファルト舗装「**アクアパーピラス**」が採用されました。

車道透水性アスファルト舗装は、環境の保や車両走行快適性の確保など多くの利点を有する工法であり、今後の採用増加が見込まれています。今回は縦断勾配が6.0%の道路であることから、同条件での試験施工を行い、耐久性を確認してから本施工を行いました。

【舗装断面】



B交通、設計CBR=12 面積5,670m²



表層完了

オランダでも好評 NIPPOの技術
2層同時舗設型アスファルトフィニッシャ

「DLペーバ」

当社は、平成16年3月にオランダの道路舗装会社であるBAM Wegen（バム ヴェーゲン）社とDLペーバにおける技術移転契約を結びました。海外での第1号機の完成にともない、同年10月、多くの関係者が見守る中、DLペーバの初適用工事がオランダ国内で行われました。立ち会われたバム ヴェーゲン社をはじめ関係各社より、施工性や出来栄の良さなどについて好評を頂きました。



DLペーバ

施工状況



アスファルトローダ

DLペーバ

施工全景

当該工事は、発注者からの「耐久性のある低騒音舗装」という要望に対し、バム ヴェーゲン社がDLペーバを提案し、採用されたものです。この「DLペーバ技術の海外移転」については、新聞にも掲載されました。

日刊建設工業新聞（平成16年4月22日付）

日本経済新聞（平成16年5月8日付）

日刊建設工業新聞（平成16年11月2日付）

▶ DLペーバとは

2種類のアスファルト混合物を上下層同時に敷きながらすることができるアスファルトフィニッシャです。材料供給機（アスファルトローダ）と併用し、「DLペーバ」に用いられます。

工事概要

施工場所：オランダ 北ホランド州
（アムステルダム以北西約20km）
面積：1,800m²（幅員6m、延長300m）
断面：上層（20mm）開粒度アスコン8mm top
下層（40mm）密粒度アスコン11mm top
適用：耐久性のある低騒音舗装

日本でも活躍

また同機は、性能発注工事などをはじめ日本で累計約43万m²の施工実績があり、低騒音性や工期短縮などが高く評価され、好評を得ています。



日本での施工状況

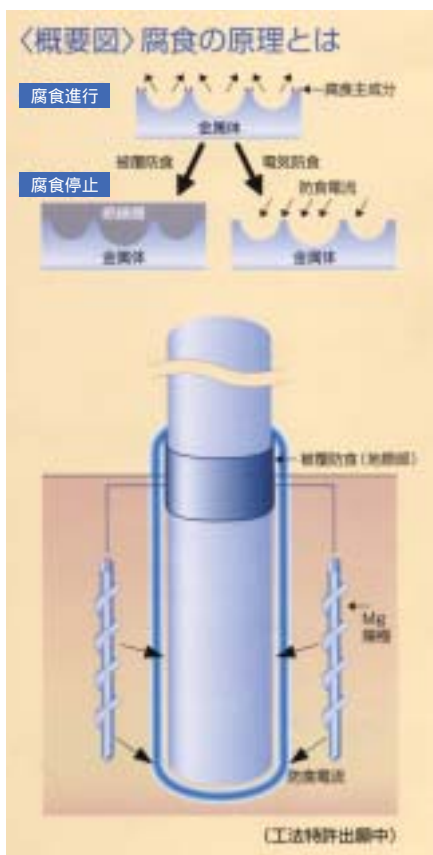
鋼管柱地際埋設部 防食工法

M-GUARD システム

エネルギー事業部

▶ M-GUARD システムとは

M-GUARDシステムは、(埋設)土中部分に対する信頼性の高い電気防食と地際部分(気中部分)に特殊防食シートによる被覆防食を組合わせた工法です。



▶ システム概要

土中に設置した鋼管柱の腐食は、電気化学的反応現象でおこります。

鋼面に電位の低い陽極部と高い陰極部が存在するため、陽極部から陰極部に向かって電流が流出します。その際、鉄が必ずイオンの形で土の中に溶け出すこととなります。腐食を防止するためには、鉄がイオンとなって土中に溶け出す現象を抑止すること。つまり鉄を土壌から電気的に絶縁することで腐食は止まります。

一般的な方法として防食テープ巻きや、塗装などで絶縁層を形成させて行います。

また、電気防食は鋼面より流出する腐食電流に対して、それに打ち勝つだけの防食電流を人為的に供給することにより腐食を防止する方法です。



施工状況

特長

- 容易な施工(15cm~20cmの掘削のみ)
- 信頼性の高い防食(電位の測定により確認)
- 高い安全性(重機等の未使用)
- 長期間の防食(30年以上の防食効果)
- 安価(既設鋼管柱に使用できる)

完成工事ハイライト



● 上信越自動車道
上田舗装工事
【長野県】

● 岡山県西部
アグリスポーツ公園（仮称）
陸上競技場整備工事
【岡山県】



● マンション建築工事
【神奈川県】